

バレーボール大会等の再開に当たっての感染防止ガイドライン

大阪中学校体育連盟バレーボール専門部

2020年7月10日

本ガイドラインは、大阪中学校体育連盟「主催大会開催にかかる感染拡大予防ガイドライン」及び、日本スポーツ協会、日本バレーボール協会から出されたガイドラインを基に大阪中学校体育連盟バレーボール専門部として、大会に関わるすべての人(選手・指導者・保護者・役員等)の生命・健康の安全を最優先に、感染拡大のリスクを最大限に排除し、安全に大会が開催される環境を提供するために必要な対応を踏まえた上で作成されたものである。

また、大会開催に限らず普段の活動に関しても、文部科学省から出されている「学校の新しい生活様式」に基づき、感染を拡大させるリスクが高いと考えられている3つの条件

1. 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、
2. 密集場所（多くの人が密集している）、
3. 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や共同行為が行われる）

を回避する対策をとるようお願いしたい。

【参考資料】

「レベル3」・・・

生活圏内の状況が、「特定警戒都道府県」に相当する感染状況である地域

（累積患者数、感染経路が不明な感染者数の割合、直近1週間の倍加時間などで判断する。特措法第45条に基づく「徹底した行動変容の要請」で新規感染者数を劇的に抑え込む地域。）

「レベル2」・・・

生活圏内の状況が、①「感染拡大注意都道府県」に相当する感染状況である地域（特定警戒都道府県の指定基準等を踏まえつつ、その半分程度などの新規報告者等で判断することが考えられる。感染状況をモニタリングしながら、「新しい生活様式」を徹底するとともに、必要に応じ、知事が特措法第24条第9項に基づく協力要請を実施する地域）及び②「感染観察都道府県」に相当する感染状況である地域のうち、感染経路が不明な感染者が過去に一定程度存在していたことなどにより当面の間注意を要する地域

「レベル1」・・・生活圏内の状況が、感染観察都道府県に相当

する感染状況である地域のうち、レベル2にあたらないもの（新規感染者が一定程度確認されるものの、感染拡大注意都道府県の基準には達していない）

文部科学省による「学校の新しい生活様式」

感染レベル	身体距離の確保	【教科活動】	【部活動】
レベル3	2メートル (最低1メートル)	理科の実験・観察、音楽の合唱・管楽器演奏などはおこなわない	なるべく個人での活動にする。 少人数の場合、十分な距離をとる
レベル2	2メートル (最低1メートル)	実験・観察など感染リスクの低い活動から徐々に実施。回数や時間を絞ることも検討	リスクの低い活動から徐々に実施。密集する運動や向かい合っでの発声などは慎重に検討
レベル1	1メートル	リスクがあるものも可能な限り感染症対策して実施	可能な限り感染症対策をして通常の活動をする

1. 再開の当たっての移行期間

5月25日～	第1段階	「休校」継続（分散登校の実施）
6月1日～	第2・3段階	学校再開のスタートアップ（分散登校・時短・部活動なし）
6月15日～	第4段階	教育活動の本格再開（部活動再開）
7月11日～	対外試合・合同練習が可能	（府教育庁 感染症対策マニュアル）
8月1日～	公式試合の開催が可能	（6月2日府中体連役員会で決定）

*公式試合の開催については「レベル1」とし、「レベル2・3」については開催を見送る

*地区大会に関しては、3年生の出場機会が与えられるよう、実施期間も含めて最大限努力して欲しい

*公式戦に限らず、日頃から行われる練習試合や合同練習でも、このガイドラインに基づいて行う。このガイドラインは状況に応じて変更を加える。

2. 大会実施における留意点

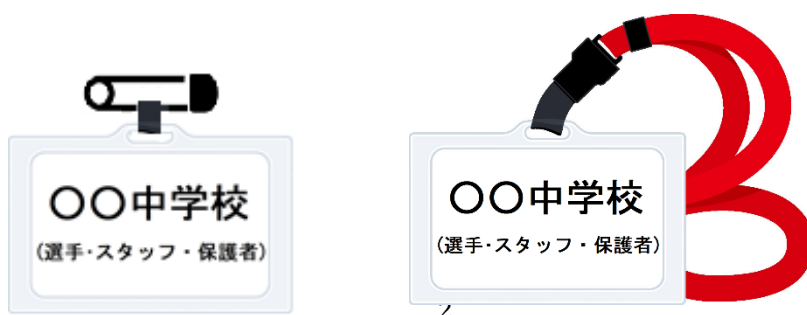
(1) 大会参加者への対応

①大会参加確認書の作成・提出

- ・生徒の参加は任意とし、保護者の同意が得られていること。
- ・体調等が記載された大会参加確認書(別紙)を作成し必ず提出する。
*確認書 会場校⇒競技委員長⇒専門委員長(2ヶ月保管)
- ・会場校は使用許可願(別紙)を提出する。
- ・集合前の健康観察(発熱や風邪症状の場合は参加せず自宅で休養する)は必ず行う。
- ・会場にて発熱や風邪症状が認められた場合は速やかに帰宅させる対応をとる。
- ・学校(顧問等)からの連絡が常にとれる、迎えにきていただくなどの協力体制を整える。(緊急連絡先の把握)

②参加人数

- ・1チーム最大 25名(選手・スタッフ・保護者を含む)を基本とする。
*チームの行動は顧問が必ず管理する。
*チーム事情もあると思いますが、3年生及びその保護者をできる限り参加させる。
*1,2年生の帯同は最少人数とする。
- ・IDカードや名札などを利用し、所属チームがわかるようにする。
(基本となる様式は配布する。印刷作業は各チームで行ってください)



③マスク等の準備（各自がマスク・タオル等の準備を行う）

- ・移動、更衣、会場内ではマスクを着用すること。競技を行っているときはマスクを外しても良い。
- ・チームスタッフ、保護者など直接競技を行わないものはマスクを着用する。
- ・主審、副審はマスクを外しても良いが、生徒役員についてはマスクを着用する。
 - *電子ホイッスルを使用する場合はマスクを着用する。
 - *笛を使用する場合はフェイスガード・マウスガードを使用する。
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒実施の指導
 - ***競技終了後は必ず手洗いを行う**
- ・消毒用アルコール、ぞうきん、石けん、ゴム手袋等については、会場校の負担にならないよう各チームで用意する。
 - *消毒用アルコールについては手指用、器具等の消毒用の区別をする。
- ・個人のマスクについては、ビニール袋等を利用し個々に管理を行う。
- ・タオル、給水ボトル、アイスパック等 必ず個人のモノを用意する。
 - *アイシング用のアイスパックはビニール袋等を使用する。

④会場までの移動

- ・移動に関しては公共交通機関を使っても良い
- ・移動時は必ずマスクをするなど感染予防に努める。

(2) 会場の準備

①消毒

- ・施設、設備、用具、控え室等、利用する場所はすべて消毒を行う。
- ・消毒用アルコール、ぞうきん、石けん、ゴム手袋等については、会場校の負担にならないよう各チームで用意する。
 - *消毒用アルコールについては手指用、器具等の消毒用の区別をする。
 - *会場校の負担にならないよう、参加チームの先生方も積極的に手伝う。
- ・ボールの消毒については、ボール自体の劣化を招く可能性があるため、各ボールメーカーのHPを参考にしてください。

②換気

- ・窓や暗幕は開けておく。(2方向の窓等を開ける。プレーの妨げになる場合は配慮してください)
- ・試合間、セット間は必ず換気を行う。
 - *セット間→ 3 分 試合間→ 15 分 (換気・消毒等の時間)

③試合球・フラッグ・得点板・モップ

- ・ボール(試合球)については、ボールの劣化を招く可能性があるため消毒はしなくてもよい。
- ・モップや得点板の使用は、使い捨て手袋を利用するなど、感染防止に努める。

④審判員の笛

- ・電子ホイッスルの使用を認める。
- ・笛を使用する場合は、フェイスガード・マウスガードを使用する。

⑤ベンチ・ウォームアップエリア・記録席

- ・イスの配置については、座る間隔を開ける。(ベンチが2列になってもかまわない)
- ・ウォームアップエリアはもうけるが、密にならないように必要に応じて使用する。
- ・記録席は2名になってもかまわないが、必ずマスクをし、必要最低限の会話にとどめる。

⑥観客席

- ・間隔を開けて椅子等を配置し、他の参加者と密になることを避けること
(高齢者、障がい者の介助を行う場合を除く。)
- ・公共の体育館を使用し、観客席が設けられている場合は、掲示物等を利用し密を防ぐ。

⑦トイレ・手洗い

- ・複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ・レバー等)はこまめに消毒を行う
- ・トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること。(可能な場合)
- ・石けん(ポンプ式のものが良い)、アルコール消毒の準備
- ・「手洗いは30秒以上」等、手洗いを励行する掲示物の準備

⑧更衣室・控え室

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること。
(高齢者・障がい者の介助を行う場合を除く。)
- ・室内ではマスクを使用する。
- ・密にならないよう人数の制限、長時間の利用を控える
- ・利用したチームの責任で、ドアノブ、机、椅子等の消毒を行う。
- ・換気扇を回す、窓を開けるなど、換気に配慮する。
- ・空調設備の使用をする際の換気を忘れない。
- ・飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしない。飲みきれなかったスポーツドリンク等は捨てずに持ち帰ること。

⑨体調不良が出た場合の控え室(空調・換気)

- ・会場校は必ず体調不良の生徒を休ませるための部屋を設ける。
- ・体調不良が出た場合は、マスク・フェイスガードを利用して対応に当たる。
- ・保護者との連絡を密に取り、迎えに来てもらうなどの対応を行う。

⑩体育館入り口の消毒 共用スリッパの禁止

- ・体育館の入り口には消毒液を常備する。
- ・共用スリッパは置かない。(各チームで周知徹底する)

⑪ゴミの持ち帰り

- ・基本、どの大会でも「ゴミの持ち帰り」を励行しているが、使用済みのティッシュ等に関しては、必ずビニール袋に入れて持ち帰るよう指導する。

⑫会場の巡視

- ・会場責任者および参加するチームスタッフは、可能な限り会場内を巡視し適切な状況で大会が運営されているか確認する。

(3) 競技

①試合数と設定時間

- ・ **1会場 4チームを最大**とし、会場内には当該チームのみとする。
 - * 試合会場によっては、午前・午後の2部制は可とする。
- ・ **1日の1チームあたりの最大試合数は2試合**を基本とする。
 - * 4チームのリーグ戦(1チーム3試合)を行う場合は試合間を十分とり、選手の健康面を最大限に考慮した設定を行う。
- ・ 試合間を十分にとり、換気・消毒等をしっかり行った上でチームの入れ替えを行う
- ・ 試合は **1セット 25点 3セットマッチ**とする。
 - * 地区の大会では、会場数・試合数・時間を考慮しての試合方法の変更は可。ただし大会を通じて統一すること。
- ・ 設定時間は以下の通りとする。(4チーム トーナメントの例)

8：30	開場（受付・コール/参加確認書の提出）
8：39	第1試合チームのみ入館、ウォーミング・アップ（ボール使用不可）
8：49	第1試合チームの練習（ボール使用可）
8：59	第1試合 プロトコール
9：10	第1試合 ホイッスル
	（試合終了後～15分間）試合終了チームの退館、換気・消毒
15分後～	第2試合のみ入館、ウォーミング・アップ（ボール使用不可）
25分後～	第2試合 チームの練習（ボール使用可）
35分後	第2試合 プロトコール（11分後スタート）
	（試合終了後～15分間）試合終了チームの退館、換気・消毒
	* 通常の連続試合のインターバルはなし
15分後～	第3試合のみ入館、チームの練習（ボール使用可）
25分後～	第3試合 プロトコール（11分後スタート）

試合終了チームの退館、換気・消毒

②コール・開始式の持ち方

- ・全体を集めての開始式は行わず、顧問(1名)とキャプテンを集めて競技・審判・会場の注意を行う。(確認書の提出)

③あいさつ・コイントス・試合前後の整列

- ・握手は控え、一礼にとどめる

④ミーティング・タイムアウト

- ・ミーティング(タイムアウト時含む)は密にならないよう距離をとる。
*選手の距離をとった結果、サイドラインを越えることは許される。
- ・試合前の円陣は行わない。

⑤チェンジコート

- ・チェンジコートを行う(3セット目はどちらかのチームが13点)
- ・チェンジコート時の消毒は、移動後のベンチを当該チームで行う。

⑥ハイタッチ・プレー時の声

- ・ハイタッチは腕タッチ程度にとどめ、集まって喜ぶことを控える
- ・大きな声でのプレー、ネット越しの会話は控える。

⑦ベンチ、ウォームアップエリアでの選手

- ・ベンチスタッフはいすに座りマスクを着用する
- ・選手はベンチに座り、競技交代の前にウォームアップエリアで準備を行う。

⑧水分補給、タオル、アイシング、うちわ

- ・選手の健康を考え、給水のためのタイムアウトを設ける。
- ・水分補給用の水筒(ボトル)やタオルなどは個人のものを使用する
- ・水分補給をする際は、できる限り間隔を開け、密にならない。
- ・うちわの使用を認める(日本中体連バレー部「熱中症対策としての団扇使用」の取り扱い)

⑨応援

- ・大きな声での応援は自粛し、間隔を開け、密を避ける
- ・応援は拍手等にとどめ、鳴り物やメガホンは使用しない

(電子ホイッスルを使用する場合、音量が小さく聞こえづらい)

⑩モップ等の使い方

- ・使い捨てのゴム手袋を使用するなど、感染の防止に努める。
- ・複数でのモップの使用を控える

⑪生徒役員

- ・生徒役員はマスクを着用する。(熱中症対策を十分に行う。)

【参考資料】

JSP0 →2(2)全国的かつ大規模なスポーツイベントの開催については、感染リスクへの対応が整わない場合は中止又は延期

比較的少人数が参加するスポーツイベントについては、地域の感染状況等も踏まえて、各都道府県知事がイベントの開催制限の解除等の対応をとることが考えられます。この場合は、適切な感染防止対策（後述「3 スポーツイベント開催・実施時の感染防止策について」参照）を講じた上で実施することが可能です。

（比較的少人数＝**最大でも50人程度**）

JVA →(2)① 当面の間、多くの参加者（**目安として50人以上**）が出場する大会やイベントの開催については、感染リスクへの対応が整わない場合は中止または延期するよう、都道府県知事からの要請等に基づき、慎重に対応してください。

③ 体育館内でのバレーボール大会については、当面の間、**試合用コート1日1面当たり、2チームを超えない範囲**での参加に限り、セットごとの換気など感染防止対策を講じた上でそれらのリスクの判断を行い、感染拡大のリスクの低い活動については注意をしながら実施することができます

※2チーム(大きな体育館では3チーム)

(4) 観客の管理

①各チーム大会参加確認書を記載し、名札等で所属チームがわかるようにする。

②公営体育館を使用する場合は、その体育館の指示に従って運営を行う。

観客の把握ができない場合は、「大阪コロナ追跡システム」を活用し感染の拡大防止に最大限努めること。

③公営体育館を使う場合、(対策を十分とった形で)受付を行い、来場者に対し名簿(確認書)への記入を行う。(検温等の準備をしてください。)

3. その他

(1) 体調不良の生徒が出た場合（当日）

①控え室での対応

- ・保護者連絡等を行う間など、当該生徒等を待機させる際には、他者との接触を極力避けられる部屋を用意し対応する。
- ・当該生徒に対応する教職員は、必ずマスクを着用し、対応の前後に十分な手洗いをを行うこと。当該生徒についても同様とする。
- ・基礎疾患等への対応や外科的処置等が必要な生徒への対応を行う部屋とは別のものを設定すること。
- ・全教職員で連携し対応できる体制を整えること。

②保護者への連絡（速やかに当該生徒を帰宅させる）

- ・当該生徒を帰宅させる際には、保護者等に連絡し迎えに来てもらうようお願いをすること。状況に応じて、当該生徒のみで帰宅させる際には、帰宅後に当該生徒等から学校（顧問等）へ連絡するよう指導し、帰宅したことを確認すること。
- ・当該生徒を帰宅させる際には、大会本部および所属校の管理職等に連絡し共有すること。

- ・当該生徒に対して、改めてマスクの着用を徹底させること。
- ・帰宅する際に電車やバス等を利用する場合は、当該生徒に対して、乗車中に極力声を発しないよう指導すること。

③待機場所の環境（各部の換気・消毒）

- ・2方向の窓等を開け、換気をおこなうこと。
- ・使用後に次亜塩素酸ナトリウム等の消毒液にて、使用した椅子や机等の消毒を行うこと。

※長時間の待機となる場合は、可能な限りベッド等を用意する。

④汚染された可能性のあるものへの対応

- ・手で触れる共有部分については、手袋とマスクを着用し、薄めた塩素系漂白剤で拭いた後、水拭きを行う。
- ・衣服やリネン等については、一般的な洗剤で洗濯した後、完全に乾かす。
その際、手袋とマスクを着用する。
- ・外科的処置後の廃棄物や、鼻をかんだティッシュ等はすぐにビニール袋に入れ、密閉して捨てる。ゴミを取扱った後には、十分な手洗いをを行う。

(2) 感染者が確認できた場合

①専門委員長への報告

* 専門委員長は専門部長及び中体連事務局へ連絡をする

(3) チェックリストの活用

- ①大阪中学校体育連盟より出されたものを利用する。
- ②大会を開催するに当たって参加するすべての皆様に守っていただきたいことリストの掲示